

例会報告：2015年1月13日（晴れ） 第1873回 通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
 日時：2015年1月13日 12:30～13:30

❖ 会長挨拶



齋藤 永 会長

皆さんこんにちは、先週の新年例会はお疲れさまでした。担当の親睦委員会と会場監督の皆さんお疲れ様でした。年当初で他の事とも重なっていましたので、出席人数が少なかつたように思われますが、参加した方はご苦労様でした。

正月も15日までと申しますがそろそろ仕事でばたばたしておられる方もおられると思いますが、今日の卓話は私も所属しております、松田町茶道協議会の方にお越しいただいて、茶道の世界を堪能していただきたいと思ひます。日本食が世界遺産になるなど日本の文化が世界で認められています。私たち日本人は世界にどう映っているのでしょうか？先日あるテレビ番組であの三年前の東北の震災のとき、震災のニュースはもとより暴動も無く配給食糧をきちんと列をなしている姿が報道されました。日本人の親切さと秩序ある行動におどろいたと報道されているんです。私たちは当たり前だと思っている事が、世界では、不思議に思われることがある事を知りました。これ以外にも沢山の日本人のいいところがあると思ひます。「おもてなし」という言葉のとおり日本人のいいところを世界に告げた事は記憶に新しいと思ひますが、おもてなしのひとつにお茶の世界があります。5年後に開催されるオリンピックには沢山の海外の方たちが日本にこられます。私たちはどんな場面で海外の人と接するかわかりませんが、おもてなしの心を学んでいく事が必要では無いでしょうか、今日はこの世界を時間がある限り堪能していただきたいと思ひます。奥は深いです。最後までよろしくお願いいたします。

❖ 幹事報告



大川 久弥 幹事

- 1) 2017～2018年度ガバナーノミネーですが、3人の方が立候補しておりましたが、選挙の結果、相模原南RCの大谷新一郎さんが過半数を獲得し、ガバナーノミネーに確定致しました。
- 2) 現在地区で1分間スピーチを募集しておりますが、志澤さんと櫻井さんから原稿の提出がございました。また小嶋さんも応募されるようですが他にいらっしゃらなければ、3名の分をガバナー補佐に提出したいと思ひます。優秀作品は3月に行われる公共イメージセミナーで選考されますので、結果はその後にご報告致します。
- 3) 次週21日の水曜日はIM合同例会となっております。火曜日の通常例会はございませんのでお間違えの無いようお願い致します。
- 4) 本日ボックスに配布しましたが、クラブの後期会費の納入時期となりました。今月中に事務局かお振込みでお納め頂きます様お願い致します。

❖ 委員会報告

青少年奉仕委員会・荻野委員長

国際ロータリー第2780地区ローターアクトの第26回地区年次大会は2/15（日）に横須賀で開催予定です。メインプログラムが軍港クルーズとなっております、会費は8,000円です。多数のご出席をお待ちしております。

❖ 出席報告

小川 和夫 委員長

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
1月21日	49(43)	29	0	67.44%
1月13日	49(45)	34	0	75.56%
1月6日	49(46)	36	1	80.43%

【1/21欠席者】14名

中村 維孝、阿久津 馨、一寸木 芳行、石内 正彦、小林和彦、岩橋 武子、大川 誠、大野 英明、須賀 俊和、一寸木 信雄、木村 頼弘、河野 秀雄、杉本 博愛、志澤 昌彦

【1/13欠席者】11名

中村 維孝、辻村 彰秀、石内 正彦、志澤 昌彦、須藤 公司、大川 誠、阿久津 馨、上田 博和、一寸木 信雄、岩橋 武子、杉本 博愛

【1/13MU】0名

【1/6MU】1名増加

村瀬 雅貧 (1/4 小田原北RC)

❖ 卓話

「茶道について」



松田町茶道協議会
 会長 遠藤 嘉代子 様

松田町茶道協議会では日本文化の粋ともいべきお茶を学ばせていただき、皆で仲良く楽しく協力してお茶の良さを広めております。本日は心を込めてお茶を点てさせていただきますので、よろしくお願い致します。



渋谷 英昭 様

実演しておりますので飲んでいただくのが一番ですが、その間にお茶の話をしさせていただきます。

茶の湯は昔中国から渡ってきました。奈良、平安時代に留学僧が禅と一緒に持ってきたのが始まりです。当時は中国文化がもてはやされていました。

例えば、明治に鎖国が終わってからはヨーロッパのものばかり真似して日本文化はどうでも良いというような時代があり、太平洋戦争が終わってからアメリカの民主主義を真似る勢いがすごかったように、昔は中国からの文化を受け入れて日本独自のものに変化させていきました。中国はアジアにおける先輩の国です。最初は上流階級の人たちがお遊びで始めました。金に糸目をつけず高価な道具を仕入れて、お互いに見せびらかし合い、自慢し合い、その後でどんちゃん騒ぎをするような状態だったようです。15世紀後半、千利休の先生の先生あたりから今の、禅に基づいた「侘び茶」の考えが出来あがってきました。千利休はすごい人で、利休の時代に確立されたことの9割くらいが現在もそのまま残っています。

そんな風に日本にお茶が入ってきて侘び茶になりましたが、これは日本人に非常に良く合っていて、今では茶の湯は世界中で日本本来の文化と思われています。中国から伝わった形はほとんど無くなり、日本独特の形式になっています。お茶は生活上の行為を文化のレベルまで高めた不思議な生活芸術で、最近では世界で認められるようになってきました。

千利休は境の商人でしたが、信長・秀吉に仕え、美に対する感覚が大変優れていて、現代でも通じるようなセンスを持っていたそうです。利休と有名なApple社のジョブズ氏は共通点が多いと言われます。ジョブズ氏はそれまで大企業でしか持てなかった電子計算機をパソコンに、そしてスマホにしていきました。利休は将軍や公家など一部の上流階級のお遊びだったお茶を、一般民衆誰でも飲めるように楽しめるようにしました。そして利休は弟子たちに「私の真似をするのではなく上を行け」と言い、ジョブズ氏は社員たちに「私以上になれ。私を超える」と言っていたそうです。また禅の世界も共通しています。ジョブズ氏は禅の先生について熱心に勉強し理解を深めていました。時代は違いますが、今利休が生きていたらどんな交流があったのかと空想してしまいます。

茶の湯の世界は一種の異業種グループです。ロータリークラブも同じでしょうが、松田町茶道協議会も老若男女おり、流派も表裏一緒に活動しています。お茶会は出会いの場なのです。色々なお仕事をされている、色々な分野の方が同席します。日本人は茶の湯の世界に適した性格で指先も器用だし、おもてなしや思いやりの心があります。言葉が通じなくてもきめ細かい心の通いが本当のおもてなしだと思います。それから、四季の移ろいを楽しめるのもお茶の良いところです。

時代や社会が変わり、新しい茶の湯の生き方が必要だと痛感しています。従来の伝統文化としての良いところは大事にして、日本人独特の繊細な気遣いや匠の技に代表される技などを一層深めて、新しい時代を切り開き世界に貢献できる茶の湯にしたいと考えています。今は正座が苦手な方が多いので、椅子に座っての稽古が増えています。本来のお茶の精神はそのまま、堅苦しくなく気軽に始めることができます。また、茶の湯は広い分野にまたがっているので、茶の湯に色々プラスしたり異質なものとコラボしたりも可能でしょう。接点は書にも焼き物にも陶器にも宗教にもあります。皆さんのご専門ともコラボができると思ひますので、これからぜひお知恵を拝借していきたいです。

